



仕事後の練習で汗を流す安田さん

輝いています

全日本シニアバドミントン選手権大会全国大会7年連続出場

ひと

やす だ あき ひろ
安田 明弘 さん

同世代との勝負は続く

ス マッシュの初速が最高で時速493キロメートルに達することから、最速のスポーツとも呼ばれるバドミントン。長年、この競技に情熱を注ぐ安田明弘さん(54歳・錦町1丁目)は、昨年11月の全日本シニアバドミントン選手権大会全国大会に東京代表として出場し、男子50歳以上ダブルスでベスト16の成績を収めました。高校で初心者としてバドミントン部に入った安田さんは、国体出場経験者の顧問による指導で基礎を固め、試合で勝てるように。大学では学部内の部活動として打ち込み、就職後は実業団チームに所属し全日本実業団バドミントン選手権大会などで活躍しました。

転職などで一時競技から離れるも、歳へ越してきた翌年の平成19年に市内で活動するクラブ「ヤノックス」と出合いのクラブで練習しています。長いキャリアのなかで、自身のプレースタイルの変化や、新たな醍醐味を感じるようになったという安田さん。プレー面では、思い切り敵陣へ打ち込むスマッシュよりも、相手のリズムを崩す老獪なレシーブが持ち味に。「一瞬の判断で相手の裏をかくプレーができたときは爽快です」と、競技の魅力を語ります。そして安田さんにとって、若い頃から知る選手と長い時を経て対戦できることはシニアならではの楽しみです。「雲の上の存在だった同世代のスター選手と真剣勝負できる。これは燃えますね」と、目を輝かせます。これまで全日本シニアの全国大会に計10回出場し、最高成績はベスト8。ベスト4の厚い壁を破るのが目標ですが、あまりそれにとらわれず、楽しみなが長く続けたいです。たとえ一回戦敗退でも、「一回戦進出したよ」と笑い飛ばします。安田さんのバドミントン人生は、まだ道半ばです。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.35 —



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

暁斎は、動物を主人公にした寓話集『イソップ物語』をもとに、当世への風刺と洒落を効かせた錦絵『伊蘇物語之内』シリーズを、明治6年(1873)と8年(1875)に出版しています。この物語は屋根の上にいる羊が下を通る狼を馬鹿にすると、狼は「お前が強いのではなく、今いる場所が良いだけだ」と言い返す話です。屋根の上の羊はタキシードにシルクハットを身に付け、下にいる狼は袴で刀を下げています。文明開化の時流に乗り、一時の成功を収めた人が、時代に取り残された人を見下しているありさまを皮肉って描いています。



暁斎筆「伊蘇物語之内 羊と狼の話」(部分) 明治6年(1873)
上州屋板 大判錦絵二丁掛

河鍋暁斎記念美術館 4月24日(水)まで
「暁斎の戯画に見る風刺と反骨」展 同時開催
「暁斎プラスワンシリーズ29 野坂穂和 波の戯画展 Part.3」

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円 小・中学生以下300円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。
詳細 = 同館(☎441-9780) (20人以上の団体は要予約)



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご確認ください